

# 博士山独り占め

保科 勝人

■山行年月日:平成 30 年 4 月 20 日  
~21 日

■メンバー:保科勝人(単独)

黄金沢源頭の滑降は単発ではつまらないので、王博士のブナ林にベースを置いて翌日ゆっくりと何本か滑ることにした。今日、明日は下界では夏日になる予報で折しも明晩は大室の「旧国分館」で会津山岳会の花見となれば、山から下りて宴会に突入という理想パターンとなる。博士峠の開通が気になるが、最悪小野川ゲートから歩くことにしていつもの様に出勤する家内を見送り遅めの出発。

小野川ゲートが開いていたので不安ながらも車を走らせる。峠からも対向車が来る。取り付き予定の尾根には雪が無いので、スキー担ぎを覚悟して博士峠から夏道を登ることにした (Dep11:50)。はたして峠からも雪が無く獣道と疑う

程の踏み付け道を一時間程登ると東北電力の雨量観測小屋に出る (P1233 13:00)。その先からは雪を拾いながら登り続け 1356m でやっと雪原となる



(14:40)。芽吹きには早いがこのブナ林は見事だ。20 年以上前に「博士山ブナ林を守る会」の現地視察に参加したことを思い出した。誰もいない王博士の頂上にテントを作りねぐらとする (16:00)。夜は会津盆地の夜景が綺麗だった。

翌朝 7 時スタート。一発目の雪は良く締まり、王博士北斜面を黄金沢まで滑り込む。あっという間である。この辺は素晴らしいブナ林で、梢を透し紺碧のスカイラインが意外と身近に感じ、実際約 30 分も登ると 1470m 先の稜線に乗ることが出来た。9 時博士山頂上に着く。前方には飯豊連峰、振り返れば南会津の山々が春霞に浮かぶ。眼下にはいつかは訪ねて見たいと思っている高森集落の赤い屋根が認められ



た。頂上で念入りにワックスを塗り込み斜面にドロップ。素晴らしい斜面がもったいなくてスローモーションの様に小さくターンを繰り返した。自分のシェパールに満足した後はチーズのベーコン巻きと冷えたワインで行動食を楽しみ、またまた王博士の対面 1444mピークを目指す。1444mからの滑降が本日のメインでバックルを締めなおし無木立の斜面に飛び込む。数分の滑降でも至福の時間を持たたことに満足して、王博士の斜面をベースに戻った。ゆっくりと昼食をとり 13:30 下山開始。下りはさすがに早い。休みを取ることも忘れ博士峠の車に無事下山する (15:30)。

あやめ荘の熱い温泉で心身を癒し「旧国分館」でコゴミ、クキダチ、菜の花のおひたしと鹿、イノシシのジビエ料理で花見の宴を満喫したのは言うまでもない。会津高田の「風が吹く」田島の「開当男山」二本松の「千功成」などを酌み交わす仲間の中になると、なんとも心が安らぐ。皆さま今後ともよろしく願い致します。



話は前後するが峠に下山するとパトカーの出迎えがあった。博士峠は 20 日に開通したが、夜通し駐車してある私の車を不審に思い通報があったらしい。美里署と坂下署で 3 台のパトカーを出したという。事件を心配しての出動でナンバーから身元を割り出し、事務局の国分さんへの連絡で事情が判明し下山を待っていてくれたのであった。峠の登山口に入山カード投函ポストがあればもう少し早めに事情が判明したと思うが、それにもましてありがたいことだと感動いたしました。

